

芹ヶ谷公園再整備基本計画



芸術の杜で、
触れて学んで！



2016（平成28）年3月
町田市

目 次

1. 計画の前提	1
(1) 計画の背景と目的	1
(2) 計画対象範囲	1
(3) 芹ヶ谷公園の概況	2
2. 計画条件の把握と整理	7
(1) 計画対象地及びその周辺の状況	7
(2) 上位関連計画等	13
(3) 芹ヶ谷公園の利用概況	17
(4) 関連施設の利用状況	20
3. 計画の課題	22
(1) 中心市街地との関連性からみた課題	22
(2) 植栽の配置に関する課題	24
(3) 新しい楽しみ方の創出のための課題	25
(4) アクセス性の向上	26
(5) 防犯、防災機能の充実	27
(6) 公園予定地の活用	27
4. 整備方針の設定	28
5. 再整備基本計画	31
(1) ゾーニング計画	31
(2) アクセス・動線計画	33
(3) 導入施設の検討	39
(4) 利用圏域・公園利用者数・利用者層の設定と施設規模の検討	40
(5) 利用者の行動形態分析	50
(6) 環境保全と管理に関する検討と設定	66
(7) 再整備基本計画図	76
(8) 整備水準・概算工事費	77
(9) 鳥瞰図	87
6. 維持管理方法の検討と設定	88
7. 参考資料	90
(1) 芹ヶ谷公園再整備基本計画の構成	90
(2) 芹ヶ谷公園再整備基本計画懇談会委員名簿	91
(3) 市民意見の概要	92
(4) 彫刻作家のプロフィール	94

1. 計画の前提

(1) 計画の背景と目的

芹ヶ谷公園は、JR 横浜線及び小田急線の町田駅から北東へ約 700m と中心市街地に近接した供用面積約 11.4ha の風致公園である。周辺には住宅地、学校などがあり、多くの市民に親しまれている公園である。

計画対象地に近接した高ヶ坂地区には、丘陵地における住居跡発見の第一号として 1926 年（大正 15 年）に国の史跡に指定された高ヶ坂石器時代遺跡（縄文式時代の集落跡）がある。

公園内には 1987 年 4 月に開館した町田市立国際版画美術館を有している。2014 年 6 月に策定した「（仮称）町田市立国際工芸美術館整備基本計画」では、同美術館を芹ヶ谷公園内に建設することを予定した。これにより芹ヶ谷公園は、町田駅周辺の文化施設などとともに、芸術の薫りがあふれる文化芸術を発信する場「芸術の杜」を目指すことにした。

芹ヶ谷公園芸術の杜は、四季を通して花、風景、回遊を楽しめる魅力ある町田薬師池公園四季彩の杜、自然の中で楽しむ総合スポーツパーク野津田公園スポーツの森とともに、本市の中核的な公園として機能していくことが期待されている。

また、町田荘跡地の活用、芹ヶ谷公園に隣接する都営住宅跡地（以下、都営跡地）の活用、公園供用開始後年月を経たトイレや管理棟など老朽化した施設の改善、防災及び防犯機能の充実が求められている。一方、町田市は多摩都市モノレール延伸に伴う公園用地の活用を想定しており、さらに中心市街地を取り巻く状況が様々に変化を続けている状況がある。

本計画は、このような状況を踏まえた上で、魅力あるまちづくりの一環として中心市街地の活性化とともに芹ヶ谷公園の新たな賑わいづくりを目指すものである。

(2) 計画対象範囲

本計画の対象範囲は、芹ヶ谷公園を都市計画決定した区域に加え、都営跡地を含む、計 15.6ha を計画対象範囲とする。



(3) 芹ヶ谷公園の概況

①公園の位置

芹ヶ谷公園は、町田市原町田 5 丁目にあつて、町田駅から北東へ約 700m、徒歩圏内の距離である。市街地のシンボリックな公園として存在している。

芹ヶ谷公園は、恩田川へ注ぐ支流の浸食により形成された谷戸の一つで、谷戸地形がそのまま残されて現在に至っている。公園周辺は、住宅や学校などが立ち並んでいる。

人の往来が多く、交通量の多い町田街道に近い場所にある一方で、街の喧騒を感じない、静かで落ち着いた空間を形成しているのは、谷戸に立地した本公園の大きな特色である。

■公園の位置



②公園の変遷及び位置づけ

【変遷】

芹ヶ谷公園の変遷は以下の表のとおりである。

■芹ヶ谷公園の変遷

年月日	事項	面積 (約、ha)	備考
1961 年 10 月 5 日	都市計画決定	10.0	地区公園として都市計画決定
1982 年 1 月 21 日	〃	11.7	特殊公園(風致公園)に種別変更、区域変更及び区域面積の追加
1982 年 4 月 1 日	供用	4.0	西側エリアのみ約 4ha が開園
1991 年 9 月 7 日	〃	11.0	東側エリア約 7ha を加え、計 11ha に拡大
1994 年 2 月 7 日	都市計画決定	12.6	町田荘他が計画決定
1996 年 4 月 8 日	〃	13.0	ひだまり荘周辺区域を計画決定
2001 年 6 月 14 日	供用	11.4	ひだまり荘周辺の一部を含み、区域拡大

【位置づけ】

芹ヶ谷公園は、風致公園として区分され、中心市街地には貴重な、まとまった樹林、湧水と一体となった緑と水の織りなす豊かな自然を活かした公園として、散策などを中心に市民の憩いの場となっている。

1987 年 4 月町田市立国際版画美術館が開館し、美術館と一体となった芹ヶ谷公園は、園内に芸術作品（オブジェ）を展示し、アートを楽しめる公園として市民に親しまれるようになった。

現在は、町田時代祭りや町田さくらまつりなどのイベントに市内外から多くの来園者が訪れ、多様な文化芸術を感じている。

さらに 2010 年度、有識者による「町田市の博物館等のあり方検討委員会」において、町田市立博物館の工芸美術部門は、芹ヶ谷公園内にある町田市立国際版画美術館とともに美術ゾーンを形成して、文化芸術振興に寄与すべきと結論づけられた。

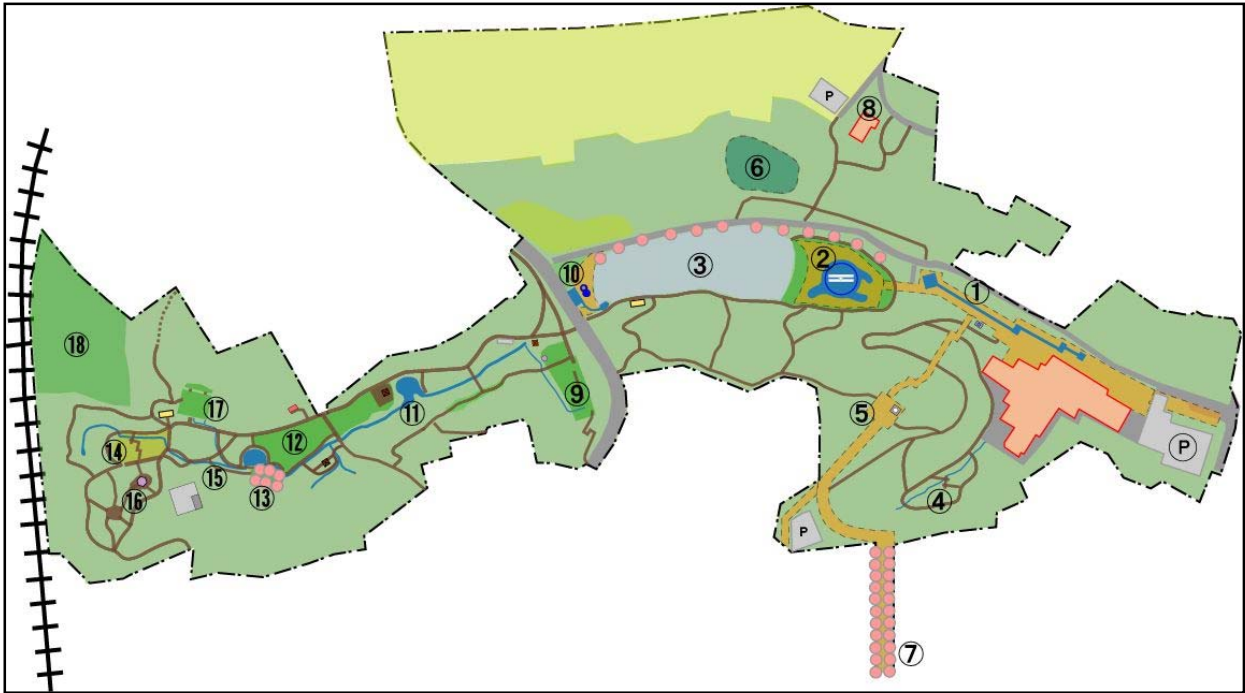
③公園の主要施設

公園の主要施設は以下のとおりである。（図、写真は次頁）

■芹ヶ谷公園の主な施設

番号	施設の名称等	施設の概要
①	せせらぎ(町田市立国際版画美術館前)	町田市立国際版画美術館正面の舗装された園路と一体となったシンボリックな水路で美術館前の空間に潤いを与えている。
②	虹と水の広場	町田市民で国際的に活躍した彫刻家飯田善國作「彫刻噴水・シーソー」があり、多くの家族連れが訪れている。
③	多目的広場	谷地で斜面地を多く含む園内で、運動やスポーツ、風揚げなど自由に遊べる広場で、町田さくらまつり、町田時代祭り（流鏝馬）などイベントにも利用されている。
④	日本庭園(町田市立国際版画美術館裏)	町田市立国際版画美術館裏手の緩やかな斜面樹林地に、日本庭園風回遊園路と流れで構成された園地で、緑豊かな空間である。
⑤	森の丘	斜面地上から園内を展望し、休憩できる小広場。園路の分岐点にもなっており、園内案内をするのに適した場所にある。井上武吉作「my sky hole 88-4」があり、印象的なアート空間でもある。
⑥	冒険遊び場 (2014 年 9 月開設)	樹林地の中で自然の地形や植物などと親しみながら遊べる場所。NPOやボランティアなど大人の指導や見守りの中で、様々な遊びを体験できる常設エリア型施設である。
⑦	南口アプローチ園路	町田街道から公園へアクセスできるサクラの並木を配したプロムナードで、春は花見、夏は緑陰として親しまれている。
⑧	ひだまり荘	公園利用者の休憩施設で、サークル活動の場としても利用されている。
⑨	冒険広場	ブランコ、木製遊具（平均台）、ターザンロープなど遊具を配した広場、ベンチやパーゴラがあって、親子がともに利用できる。
⑩	アーチの泉	公園西北側からの湧水を集めて、アーチ状のトンネルから泉として湧出させている。
⑪	大池	湧水を利用した池を自然石で修景した日本庭園的な園地で、ベンチを配して良好な水辺景観を演出している。
⑫	芝生広場	きれいに管理された芝生広場にあずまやを配し、近くの大池の水辺と周囲の樹林地と一体となった静かにくつろげる空間である。
⑬	花見広場	湧水の流れを利用した小川沿いに桜が植栽された小広場で春には花見客が訪れる。
⑭	カキツバタ園	カキツバタを植栽した湿地の園地で、八つ橋状の園路で周辺が散策できる。
⑮	湧水と流れ	周囲の斜面からの流れを集めた自然の流れで、芹ヶ谷公園の大きな魅力の一つになっている。
⑯	花木園、藤棚	ツバキ、ウメ、フジは季節の彩りを感じさせる花木園と藤棚として、散策コースの重要なポイントとなっている。
⑰	レストコーナー	静かな樹間でベンチを配した平坦な空間で、木々の香りや小鳥のさえずりなどを満喫できる。
⑱	自然保護林	小田急線沿いののり面と自然斜面で、コナラ、クヌギなどの落葉広葉樹、シラカシなど常緑樹で構成され、自然遷移の進んだ保護林である。

■主要施設の位置



①せせらぎ（国際版画美術館前）



②虹と水の広場



③多目的広場



④日本庭園（国際版画美術館裏）



⑤森の丘



⑥冒険遊び場



⑦南口アプローチ園路



⑧ひだまり荘



⑨冒険広場



⑩アーチの泉



⑪大池



⑫芝生広場



⑬花見広場



⑭カキツバタ園



⑮湧水と流れ



⑯花木園、藤棚



⑰レストコーナー



⑱自然保護林



■園内のオブジェ

左上：「my sky hole 88-4」
(井上武吉 作／1988 年)

左下：「開かれた宇宙」
(高橋清 作／1990 年)

右上：「トキオコシ」
(平野杏子 作／1990 年)

右下：「彫刻噴水・シーソー」
(飯田善國 作／1989 年)

